〈看護学科〉

基礎看護学

准教授：菊池麻由美　　基礎看護学
講　師：羽入千恵子　　基礎看護学
講　師：佐竹　澄子　　基礎看護学

教育・研究概要

基礎看護学領域では看護学科学生の定員増を見据えて，教育内容および方法の検討を行った。特に，看護の技術習得のための授業，演習，実習の方法を工夫し，少人数での学習を可能にするためのプログラム開発と実習病棟との交渉をはじめた。

また，2010年度までに引き続き，フィジカルアセスメントについての教授方法の検討および看護援助，看護診断に関する研究を行った。これまでも基礎看護学領域で力を入れてきたフィジカルアセスメント教育についての研究では，看護学生の初期看護学実習におけるフィジカルアセスメント技術の習得状況を質的に明らかにし，実習および事前の講義や演習等の教授方法との関連を検討した。看護援助についての研究では，排泄および安楽，ポジショニングの技術に焦点を当てた準実験的デザインの研究を行っている。また，療養介護病棟でのフィールドワークに基づく運動機能障害患者への援助行為についての記述的研究および新たな看護診断ラベルの同定に向けた看護診断に関する研究にも続けて取り組んでいる。

「点検・評価」

看護実践能力の育成に向けて精力的に教育方法の検討を行った。特に，フィジカルアセスメント教育については研究結果からも一定程度の効果が確認できている。今後更に，日常生活の援助に関連した技術の習得にむけて，リアリティのある教授方法の工夫やe-ラーニングを用いた学習支援などを工夫していきたい。

研究活動については，領域構成員がそれぞれに研究テーマをもって継続して研究を行っている。これまでの研究成果は各学会で発表してきた。今後，これらを学術論文にまとめることが必要である。

研　究　業　績

Ⅲ．学会発表

1）羽入千悦子，菊池麻由美，佐竹澄子，青木紀子．基礎看護学実習における学生のフィジカルアセスメント活用状況．第22回日本看護学教育学会学術集会．熊本，8月．［日看教会誌 2012；22(学術集会講演集)：206］
2）菊池麻由美．筋ジストロフィー病棟看護師の発達の様相．第22回日本看護学教育学会学術集会．熊本，8月．［日看教会誌 2012；22(学術集会講演集)：287］
3）小泉純子，福田和明，成井美穂，安藤敬子，菊池麻由美，杉田里絵．終末期がん患者の家族のスピリチュアリティに対する看護師の援助の探求．第18回日本看護診断学会学術大会．京都，7月．

看護管理学

教　授：永野みどり　　看護管理学・褥瘡ケア・ストーマケア

教育・研究概要

Ⅰ．教　　育

学部の教育として，前期の3年生の必修科目「看護マネージメント」と後期の2年生の必修科目「看護情報管理学」は，専任教授の永野みどりが担当した。看護総合演習Ⅱならびに総合実習は，複数の担当教員の一人として担当した。

修士課程の教育では，「看護管理学特論Ⅰ（看護管理学概論）の一部」「看護管理学特論Ⅱ（看護組織論）」「看護管理学特論Ⅲ（看護情報管理学概論）」「看護管理学演習Ⅰ（人材資源活用論）」は，永野みどりが担当した。「看護管理学特論Ⅰ（看護管理学概論）の一部」と「看護管理学演習Ⅱ（看護の質向上評価システム）」は住吉客員教授が担当した。「看護管理学演習Ⅲ（看護政策アセスメント）」「看護理論」は，永野が調整し，複数名の非常勤講師が担当した。修士課程研究指導担当の非常勤講師である菅田勝也教授（藍野大学医療保健学部長）が看護管理学分野の大学院2年生2名の指導にあたった。1年生の研究指導は永野が担当し，もう一人の指導は，地域連携保健学分野教授で看護学研究科長の櫻井尚子教授と永野が担当した。看護管理学分野の院生1名が進級し，3名は修了した。

Ⅱ．研　　究

１．褥瘡対策体制の質指標に関する研究

平成 21 年度から 23 年度まで科学研究費補助金を得て実施していた研究課題「病院における褥瘡対策体制の質評価指標の開発（課題番号 21592685）」の調査結果の分析と成果の報告ならびに原著を作成した。

２．ストーマ外来のケアニーズに関する研究

平成 24 年度看護学科研究費（研究課題：ストーマ外来受診時間からみたケアニーズの多様性と影響要件）112,000 円を得て準備し，国際学会に示説として研究成果を発表した。また，ストーマ外来利用患者のさらなるデータ収集を継続した。

３．高齢者訪問看護質指標に関する研究

平成 24 年度科学研究費補助金（基盤研究 A 研究代表者：山本則子　研究課題：高齢者訪問看護質指標を用いたインターネット訪問看護支援システムの有効性検討　課題番号 20249086）の分担金 100,000 円を得て，高齢者訪問看護の質指標（褥瘡ケア・スキンケア）の改訂版を作成し，学会で成果を発表した。

「点検・評価」

教育において，前期までは専任教授として初年度であり，試行錯誤の半年であった。後期は 2 年目であり，前年度の経験を生かして，授業などを工夫して更新した。修士課程の院生の研究指導は，櫻井研究科専攻長の協力により実施できた。学部・大学院ともに授業に対する学生の反応や必要とされる能力について検討し，授業内容と教育方法の検討が課題である。

研究においては，筆頭著者として原著が学術誌に掲載されたことは，特筆すべきであるが，未発表データが手元にあるので，今後もひきつづき，原著の作成が課題である。学会発表も，筆頭演者として 4 つの演題を発表できた。データ入力や英訳等の委託費が不足しており，競争的な研究費の獲得も重要な課題である。

研　究　業　績

Ⅰ．原著論文

1）永野みどり，緒方泰子，徳永恵子．褥瘡発生率との関連からみた病院の褥瘡対策体制の評価指標の検討．日看評価会誌 2012；2(1)：9–18.

Ⅲ．学会発表

1）永野みどり，緒方泰子，徳永恵子．病院における褥瘡対策体制の評価－褥瘡発生率と職務満足に関連する実践と管理者の役割・機能－．第 16 回日本看護管理学会年次大会．札幌，8 月．［第 16 回日本看護管理学会年次大会講演抄録集 2012；153］

2）西村宣子，手島　恵，永野みどり．集中治療室看護の質向上への取り組み－価値観の共有と認定看護師の活用－．第 16 回日本看護管理学会年次大会．札幌，8 月．［第 16 回日本看護管理学会年次大会講演抄録集 2012；116］

3）Nagano M, Tokunaga K, Tukada K, Ando Y, Mamada E. What factor was strongly related to the required time at the stoma clinic? 4th Congress of the World Union of Wound Healing Societies（WUWHS 2012）Yokohama, Sept. [WUWHS 2012 Program and Abstracts 2012；437]

4）永野みどり，緒方泰子，徳永恵子．褥瘡発生率が低い病院の褥瘡対策の取り組み　200 床以上の病院の WOCN と看護管理者を対象とした質問紙調査．第 50 回日本医療・病院管理学会学術総会．東京，10 月．［日医療病管理会誌 2012；49(Suppl.)：100］

5）緒方泰子，永野みどり，橋本廸生．管理職以外の病棟看護職におけるバーンアウトと看護職特性および看護実践環境との関連．第 50 回日本医療・病院管理学会学術総会．東京，10 月．［日医療病管理会誌 2012；49(Suppl.)：158］

6）川上千春，本田彰子，永野みどり，岡本有子，遠藤貴子，緒方泰子，山本則子．高齢者訪問看護の質指標の開発　終末期ケアに関する改訂版の作成．第 3 回日本看護評価学会学術集会．東京，2 月．［日看評価会講抄集 2013；3 回：33］

7）岡本有子，遠藤貴子，本田彰子，永野みどり，川上千春，緒方泰子，山本則子．高齢者訪問看護の質指標の開発　排尿ケアに関する改訂版の作成．第 3 回日本看護評価学会学術集会．東京，2 月．［日看評価会講抄集 2013；3 回：34］

8）永野みどり，緒方泰子，本田彰子，岡本有子，遠藤貴子，川上千春，山本則子．高齢者訪問看護の質指標の開発　褥瘡ケア・スキンケアに関する改訂版の作成．第 3 回日本看護評価学会学術集会．東京，2 月．［日看評価会講抄集 2013；3 回：35］

成人看護学

教　授：藤野　彰子　　がん看護学，緩和ケア
教　授：高島　尚美　　周手術期看護学，クリティカルケア
講　師：瀬山　留加　　がん看護学，家族看護
講　師：村田　洋章　　周手術期看護学，クリティカルケア

教育・研究概要

Ⅰ．終末期がん看護におけるケアリングタッチの考察

藤野は緩和ケア病棟に勤務する看護師 11 名のインタビューを通し，ケアリングタッチの重要性を明らかにしようとしているが，本年度はすべてのデータの分析が終了し，論文を作成している過程である。

Ⅱ．ICU 入室患者のストレス経験に関する研究および胃がん周術期患者の活動状況分析

高島は ICU に入室し 24 時間以上人工呼吸器を装着している患者のストレス経験調査を実施中であり，胃がん周術期患者の活動状況については論文作成を実施した。

Ⅲ．人工呼吸器装着患者への看護支援プログラム開発

村田は人工呼吸器装着中の患者の体験を明示しつつ，プログラム構築するためにデータ分析を進めている段階にある。また，せん妄患者を対象とした研究にも着手し，現在はデータ収集中である。

Ⅳ．治療を受けるがん患者・家族のケアモデルの開発

瀬山は緩和ケアチームの依頼表を分析し，一般病棟や外来で積極的治療を受けながらも専門的な緩和ケアを必要とする現象を明らかにした。現在はケアモデル構築に向けて，さらなるデータ収集，分析の過程にある。

「点検・評価」

成人看護学実習に求められるリスクマネージメント教育のあり方の検討から，看護技術の内容を検討し，点滴の管理，救急蘇生，心電図等を学内演習に取り入れ，また，手術室，ICU，血液浄化部等の臨地実習をも導入することで，学生の看護技術の見学や体験が増加した。学生の評価でも満足感があるとの結果がでているので，本年度も継続している。看護学実習において，学生に看護技術をできるだけ多く体験させるよう，ステップアップノートを有効に使い成果は上がっている。

成人急性期分野の教授が 2 名から 1 名となり，新しい教員の候補者がいないため欠員のままとなり，この分野の教育と研究において，教員の負担が増加したが内容的には充実したものであった。成人慢性期分野では，大学院特任教授の退職に伴い，准教授の定員 1 名が増員されたが，候補者がいないため欠員となった。ただし，教員の協力により教育内容は継続性を持ち一定の水準を維持できた。

研　究　業　績

Ⅰ．原著論文

1）高島尚美，村田洋章．胃がんで手術を受けた患者の術 2 ヵ月後までの Quarity of Life の量的・質的評価に関する研究．慈恵医大誌 2013；128(1)：25-34.
2）高島尚美，村田洋章，渡邊知映，野中麻衣子，小曽根基裕，中田浩二，三森教雄，柏木秀之．胃癌胃切除周術期の心理的要因の変動（HADS）と生活状況・QOL との関連．消心身医 2012；19(1)：14-20.

Ⅲ．学会発表

1）Murata H, Inoue T, Yamaguchi Y, Takashima N. Experiences of patients with acute respiratory failure undergoing noninvasive positive-pressure ventilation. 9th International Conference with the Global Network of WHO. Kobe, June.
2）深井喜代子（岡山大学），齋藤やよい（東京医科歯科大学），田中裕二（千葉大学），佐伯由佳（香川大学），高島尚美．論文投稿の A to Z　看護学発展の基礎となるもの．日本看護技術学会第 11 回学術集会．福岡，9 月．［日看技会講抄 2012；11 回：58］
3）高島尚美．（シンポジウム 2：集中治療における教育ラダーのあり方）集中治療における教育ラダーのあり方　看護基礎養育を担う立場から．第 40 回日本集中治療医学会学術集会．松本，3 月．［日集中医誌 2013；20(Suppl.)：454］
4）田實紘子，高島尚美．心臓外科手術を受けた高齢患者の早期離床に伴う体験．第 8 回日本クリティカルケア看護学会学術集会．東京，6 月．［日クリティカルケア看会誌 2012；8(2)：165］
5）志村知子（日本医科大学），高島尚美．頚髄損傷患者における医療者の情報提供に伴う体験．第 8 回日本クリティカルケア看護学会学術集会．東京，6 月．［日クリティカルケア看会誌 2012；8(2)：163］
6）久保沙織，高島尚美．集中治療室における看護ケア

に伴う看護師の説明行為の意味．第８回日本クリティカルケア看護学会学術集会．東京，６月．［日クリティカルケア看会誌 2012；8(2)：160］
7）高島尚美，村田洋章，野中麻衣子，渡邉知映．胃癌術後患者の術後２ヵ月までの心理・身体的回復状況と関連因子の検討．日本看護研究学会第 38 回学術集会．宜野湾，７月．［日看研会誌 2012；25(3)：264］
8）高島尚美，伊藤聡子（神戸医療センター），池亀俊美（聖路加国際病院），藤井玲子（岡山大学）．（機関誌編集委員会看護部会企画）とにかく看護研究をやってみよう！　第 40 回日本集中治療医学会学術集会．松本，３月．［日集中医誌 2013；20(Suppl.)：459］
9）高島尚美，若澤弥生，野中麻衣子．手術室実習における学生の学習内容と臨床実習指導者の反応による教育評価．日本看護学教育学会第 22 回学術集会．熊本，８月．［日看教会誌 2012；22(学術集会講演集)：279］

Ⅳ．著　　書

1）村田洋章，山口庸子．疾患と看護がわかる看護過程　ナーシングプロセス　心不全．クリニカルスタディ 2012；33(5)：41-55.
2）早川弘一[1)]，高野照夫[1)]([1)]日本医科大学)，高島尚美編．ICU・CCU 看護．東京：医学書院，2013.

Ⅴ．そ の 他

1）高島尚美．（分科会３・話題提供）スタッフ全員がかかわる臨地実習指導の実現による学生・スタッフ双方の学びの発展．千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター創立30周年記念講演会．千葉，６月．

老年看護学

教　授：櫻井美代子　　老年看護学
准教授：草地　潤子　　老年看護学

教育・研究概要

教育では，学生が実習で多く受け持つ脳梗塞高齢患者の看護についての理解を深めるため，視覚的教材（DVD）の「看護のためのアセスメント事例集 vol.5 脳梗塞患者の看護事例」を製作した。この教材を用いることによって，従来行っているペーパーペイシェントによる高齢者のアセスメント学習において対象のイメージ化が図ることが容易になることが期待できる。また嚥下障害患者や褥瘡患者の看護技術を高めるために，模擬患者を使用した学内演習を多く取り入れている。

研究活動では「要介護高齢者の主体的活動を支援する運動プログラムの検討－長時間車いすを利用する人の下肢浮腫の実態と関連因子－」というテーマで，領域全体として取り組んでいる。本年度は，車いすを使用する高齢者の下肢浮腫の実態について老人保健施設で生活する高齢者を対象に調査を行い，結果をまとめた。今後，対象の身体運動能力や浮腫が増強する時間帯などを踏まえ，下肢浮腫を改善する運動プログラムを検討している。

「点検・評価」

教授内容については講義・演習・実習での学生の反応を踏まえて適宜再検討を行い，工夫をしている。第三病院の認定看護師や多職種との連携した教育活動は，今後も継続していく必要がある。研究活動については領域としての研究活動を開始したところであり，今後継続発展させ，学術集会での発表につなげていきたい。また領域構成員のそれぞれの研究テーマを遂行し，学術論文にまとめることが必要である。

精神看護学

教　授：川野　雅資　　精神看護学
講　師：石川　純子　　精神看護学

教育・研究概要

精神看護学領域では，教育活動として，学生が講義と演習，そして実習が連動するように改善して５年目になり，前年度以上に充実した。１年次の精神看護学概論では，メンタルヘルスと最新の概念の内容を講義に加えた。２年次の精神看護対象論では，精神科医と講義を分担し，精神障害者への精神医学的な診断と看護について連動して講義をした。精神障害のある人がどんな経験をしたかについての理解を学生がより一層深められるように，前年度に引き続きかがやき会から体験者をゲストスピーカーに招いた。３年次の精神看護方法論では，主に対人関係構築のためのコミュニケーション技術についての演習を行った。更に，一昨年度から用いている実習病院での実際に近い DVD を活用して，実習のイメージ化と精神障害者への対応の具体的方法を学べる工夫をした。期末試験はペーパーテストではなく，SP（模擬患者）を招いて実技試験を行なった。これは学生の臨床力をいっそう強化できるように工夫した点である。臨地実習に関しては，慈恵医大附属病院の 11E 病棟をフィールドに加え，２年目となった。数々の課題を抱えつつではあるが，臨地実習指

導者と協働し，試行錯誤で実習の形を整えている段階である。また看護総合演習Ⅱ（精神ゼミ）では都立松沢病院や国立精神・神経医療研究センターを訪問し，司法精神医療における看護の対象への理解を深められるよう工夫した。４年次の総合実習では，目的・目標を再検討し，昨年度に引き続き東京武蔵野病院でスーパー救急病棟における精神障害者への看護技術をより深く理解できるよう工夫した。

研究活動は，日本とタイで農村部に暮らす退院した精神障害者の医療と生活についての比較研究を継続，東京都下板橋区・豊島区・練馬区の児童青年精神医療の資源についての調査研究は完了し，成果をCD化した。精神看護における基礎教育と専門教育で求めるコミュニケーション技術に関する研究については前年度同様継続中である。特にヒューマンケアリングアプローチとディスコース分析は集中的に行った。その他，酒害者回復クラブの効果に関する研究，うつ病からの回復者についての研究も行なっている。

「点検・評価」

教育活動・内容の見直しに継続的に取り組み，前年度よりも完成度を上げた内容で教育できた。講義，演習，そして実習では学生からのフィードバックをもとに教授内容を再検討するよう工夫し，ほとんどの目的目標は達成されたといえる。それは効果的な変化があったと評価でき，教育内容の充実を図れているといえる。

今後も，学生が講義と実習を連動して考えられるようにDVD教材のさらなる活用と実習病院と大学との関係を強化していきたい。また，講義と実習における学生からの評価を適用し続けることはとても重要である。次年度も引き続き，３年次の学生に期末試験でSP（模擬患者）を招く予定であり，学生の臨床力をいっそう強化できるように工夫していきたい。

そして，我々の研究活動が教育へ還元できるようにしていく。学外の研究費を獲得することができていないので，この点は継続課題である。

研　究　業　績

Ⅰ．原著論文

1）一ノ山隆司（国際医療福祉大学），舟崎起代子（富山市民病院），松浦純平（奈良県立医科大学），上野栄一（福井大学），川野雅資．妄想のある統合失調症患者との対話場面におけるコミュニケーション技法．日看会論集：精看　2012；42：137-40.

2）曽谷貴子[1)]，日下知子[1)]([1]川崎医療短期大学），揚野裕紀子[2)]，井田裕子[2)]([2]山陽学園大学），川野雅資．精神障がい者が農村地域で暮らし続けることができる要因の構造化．日看会論集：地域看 2013；43：47-50.

Ⅱ．総　　説

1）川野雅資，石川純子．【コミュニケーション力を育む－実習前に教員としてできること】ロールプレイングを用いたコミュニケーション教育．看教 2012；53(10)：844-9.

Ⅲ．学会発表

1）川野雅資，片山典子（目白大学），塩月玲奈（東京武蔵野病院），柳田崇姉．うつ病を体験した人の職場復帰への支援　当事者と支援者の語りから．第38回日本看護研究学会学術集会．宜野湾，７月．［日看研会誌 2012；35(3)：117］

2）佐々木愛（吉祥寺病院），川野雅資．看護の視点から見た性同一性障害の文献検討．第38回日本看護研究学会学術集会．宜野湾，７月．［日看研会誌 2012；35(3)：169］

3）安藤満代（聖マリア学院大学），川野雅資，廣瀬真也（のぞえ総合心療病院）．精神障害者の病院から地域への移行を促すソーシャルキャピタルの促進要因と阻害要因．第38回日本看護研究学会学術集会．宜野湾，７月．［日看研会誌 2012；35(3)：170］

4）植木健康（東京武蔵野病院），松浦純平（奈良県立医科大学），上野栄一（福井大学），川野雅資．精神科初回入院患者の家族支援に関する動向と課題．第38回日本看護研究学会学術集会．宜野湾，７月．［日看研会誌 2012；35(3)：274］

5）石川純子，川野雅資．精神看護学方法論におけるDVD教材活用の有効性に関する研究．第38回日本看護研究学会学術集会．宜野湾，７月．［日看研会誌 2012；35(3)：307］

6）揚野裕紀子[1)]，中田涼子[1)]([1]山陽学園大学），曽谷貴子[2)]，日下知子[2)]([2]川崎医療短期大学），川野雅資．農村地域で暮らす精神障がい者の事例分析（第２報）生活を続けていくための要因分析．第38回日本看護研究学会学術集会．宜野湾，７月．［日看研会誌 2012；35(3)：355］

7）石川純子，川野雅資．精神看護学方法論におけるDVD教材活用の可能性に関する研究　入院時看護面接場面のRIAS分析．第32回日本看護科学学会学術集会．東京，12月．［日看科学会講集 2012；32回：548］

8）山田　洋（久里浜医療センター），川野雅資．精神科勤務看護師と非精神科勤務看護師との被暴力の比較．第32回日本看護科学学会学術集会．東京，12月．［日

看科学会講集 2012；32 回：553］
9）塩月玲奈（東京武蔵野病院），川野雅資．子どもを児童思春期精神科病院に入院させた母の体験．第 32 回日本看護科学学会学術集会．東京，12 月．［日看科学会講集 2012；32 回：555］
10）津端飛鳥（山梨県立大学），加藤博之（甲府看護専門学校），川野雅資．地域で生活する精神障がい者が語る今の暮らし．第 32 回日本看護科学学会学術集会．東京，12 月．［日看科学会講集 2012；32 回：570］
11）関井愛紀子（新潟大学），飯田　亘（新潟県立中央病院），五十嵐正徳（新潟県立精神医療センター），川野雅資．農村地域で暮らす精神障害者を支える社会資源とソーシャルキャピタルの検討　促進要因と阻害要因．第 32 回日本看護科学学会学術集会．東京，12 月．［日看科学会講集 2012；32 回：571］

小児看護学

教　授：濱中　喜代　　小児看護学
准教授：高橋　　衣　　小児看護学

教育・研究概要

Ⅰ．入院している子どもの教育支援のための教育と医療の連携・協働－教師に対する踏査的な調査による検証－

昨年度の分析結果をもとに日本小児看護学会および日本育療学会にて発表した。

Ⅱ．難病の子どもの親の会会員の小児慢性特定疾患治療研究事業に対する要望と期待

難病の子どもの親の会・会員に対し，小児慢性特定疾患治療研究事業（以下，小慢）およびその他の制度・支援に関する利用状況および要望，期待，思いについて明らかにするため，質問紙による調査研究を行った。認定 NPO 法人「難病の子ども支援全国ネットワーク」で支援している「親の会連絡会」に参加している 54 団体のうち同意の得られた親の会（19 団体）の会員 385/795 名より回答を得た。

小慢および病気の子ども全体にかかわる問題・課題や制度支援に関して困ったことや期待することなど，リッカート評定で訊ねた項目については記述統計処理を行い量的に分析した。今後は自由記載の内容について質的に分析する予定である。

Ⅲ．倫理教育受講に携わる看護師の倫理教育受講経験と「子どもの権利」を擁護する看護の現状－小児看護に携わる看護師に焦点をあてて－

倫理教育受講に携わる看護師の倫理教育受講経験と「子どもの権利」を擁護する看護の現状について，小児看護に携わる看護師を対象として，関東圏内の小児専門病院・大学病院・一般病院 6 施設において，質問紙による調査研究を行った。分析した結果を，量的結果を日本看護科学学会学第 32 回学術集会の示説で発表した。自由記載に関する結果は，日本小児看護学会で発表予定である。

Ⅳ．看護基礎教育における「看護倫理」と「子どもの権利」擁護の教育の現状

昨年度より継続して，看護基礎教育における「看護倫理」と「子どもの権利」擁護の教育の現状について，全国の看護系大学・看護系短期大学・3 年課程の看護専門学校を対象に質問紙による調査研究を行っている。現在，データを分析中である。

「点検・評価」

教育では高橋准教授が着任し，教育体制が強化され，学内・学外演習の充実が図られた。

研究ではⅠの研究については成果を今後に役立てたい。Ⅱの研究は今後分析をすすめ発表するとともに，今後も継続的に研究を進め，実践の場に役立てられるように活かしていきたい。Ⅲ・Ⅳの研究では今後，看護基礎教育・現任教育における看護倫理と「子どもの権利」擁護に関連した教育の現状と，看護の現状とを関連させ分析を進めるとともに，「子どもの権利」擁護を高めるための研究を継続的に進めていきたい。全体として，領域内や他大学の教員との連携研究が推進できていることも評価できる。

研　究　業　績

Ⅲ．学会発表

1）濱中喜代，荒川まりえ，高橋　衣．入院している子どもの教育支援のための教育と医療の連携－関東地域の教師に対するインタビュー調査の結果－．日本小児看護学会第 22 回学術集会．盛岡，7 月．［日本小児看護学会第 22 回学術集会講演集］
2）濱中喜代，高橋　衣，荒川まりえ．入院している子どもの教育支援のための教育と医療の連携－関東地域における教師に対する踏査的調査の結果－．第 16 回日本育療学会学術集会．蔵王町，8 月．
3）高橋　衣，濱中喜代，石井まりえ．倫理教育受講経験と「子どもの権利」を擁護する看護の現状－小児看

護に携わる看護師に焦点をあてて－．第32回日本看護科学学会学術集会．東京，12月．［日看科学会講集2012；32回：452］

母性看護学

教　授：茅島　江子　　女性の健康と看護ケア
准教授：細坂　泰子　　周産期ケア，新生児清潔ケア，母乳

教育・研究概要

女性のライフスタイル各時期における様々な健康問題について研究し，母性看護における看護援助のあり方について考察した。

Ⅰ．思春期のネット使用と性の健康問題の日中比較

思春期のネット使用と性の健康問題について2006年～08年の日本と中国のweb新聞記事を通して分析した。その結果，日本では，出会い系サイトの問題，フィルタリングソフトの設置や子供との携帯使用のルール作り，中国では，ネット依存が精神疾患として問題視され，保護者がPCに関心を持つ必要性が報告されていた。両国とも，青少年のネット利用を監視し，制限していく動きはあるが，メディアリテラシー教育の必要性が示唆された。

Ⅱ．初妊婦の健康行動・知識と医療者による保健指導状況との関連

妊娠前半期を中心に，初妊婦の健康行動・知識と医療者による保健指導状況との関連を分析した。その結果，保健行動・知識得点は，保健指導の満足度得点が高いと高く，指導者の「ネガティブサポート」得点が高いと低かった。保健指導を妊婦の行動変容につなげるためには，保健指導の満足度を高め，受容的態度で接することが重要である。

Ⅲ．母乳中における細菌学的・免疫学的・栄養学的安全性の検討

搾母乳の保存方法および解凍方法による細菌学的・免疫学的安全性の検討を，産後1ヶ月の成人褥婦20名を対象に得られた搾母乳および新生児用人工ミルク2検体を対象として行なった。母乳中における細菌は，常温，冷凍，冷蔵の順に多く，保存方法によって細菌数が減少することが明らかになった。免疫学的な検討はIgAおよびリパーゼを指標に分析を行い，リパーゼでは，どの解凍方法でも有意に値が減少していた。また栄養学的検討では，グルコース，総蛋白，総脂質，総コレステロールの4指標にて分析を行い，総コレステロールでは，電子レンジおよび熱湯解凍で有意に値が減少することが示された。

Ⅳ．混合研究法を用いた新生児清潔ケアの実態調査

日本全国の出産数から抽出した産科施設256施設を対象とし，早期新生児期の保清方法と保清時間，新生児の管理時間および属性についてはがきによる質問紙調査と，日常的に新生児の清潔ケアに携わる助産師を対象にインタビューを行った。分析は混合研究法の説明的デザインを用い，全国横断調査によって導かれた量的結果を，質的結果が説明できるように分析を進めた。出産当日は何もしない施設がもっとも多く，生後1日目以降は沐浴がもっとも多い清潔ケア方法であった。新生児清潔ケアの選択に，分娩数やスタッフの数は影響しなかった。新生児の清潔ケアを沐浴群，ドライケア群に分け，地区ごとに$\chi 2$独立性の検定を行った結果，関東地区が有意にドライケア群が多く，九州地区では有意に沐浴群が多かった（$p<0.01$）。インタビューに参加した5施設の助産師5名が現在従事している清潔ケアは沐浴実施が2名，ドライテクニック実施が3名であった。“新生児の負担を優先した清潔ケア”“医療者にとっても大事な子どもであると伝わるケア”“伝統的な沐浴に対する両側からの評価”“新生児の負担減と医療者の余裕を生むドライテクニック”“ゆらぐ新生児清潔ケア”の5つのカテゴリーが抽出された。

「点検・評価」

日本では，急速なインターネットの普及によって，児童売春につながる出会い系サイトなどが問題となっていたのに対して，中国ではネット恋愛はあるものの，犯罪との結びつきの報道はなく，むしろネット依存が問題となっていた。思春期における性の健康問題の予防のためには，メディアリテラシー教育の必要性が示唆された。

初妊婦の健康行動・知識には，保健指導の満足度と指導者のネガティブな態度が関連していることが明らかとなった。保健指導を受けた妊婦が行動変容をするためには，保健指導の内容を検討して満足度を高めるとともに，指導者が受容的態度で接することが重要であり，今後，外来での保健指導の改善に活用できると考える。

母乳中における細菌学的・免疫学的・栄養学的安全性の検討では，母乳の保存方法および解凍方法に

よる違いが明らかになった。これらの結果は論文や学会発表を通じて公表をおこなった。

日本全国の新生児清潔ケア調査では，現在の清潔ケアの実態が明らかとなった。また，実際にケアを行っている助産師の清潔ケアへの思いを加味して分析した，混合研究法を用いたことで，全国調査だけでは明らかにならなかった，医療者の思いも分析することができた。今後は学会発表や論文化していく予定である。

研　究　業　績

Ⅰ．原著論文

1）藤原聡子[1)]，茅島江子，清水嘉子[1)]，西野自由理[1)]（[1)]長野県立看護大学）．思春期のネット使用と性の問題に関する日中比較　2006～08年の日中web新聞記事から－．日性科会誌 2012；30(1-2)：51-62.

2）細坂泰子，抜田博子，伊藤文之，石井裕子，大西明弘，磯西成治．搾母乳の解凍方法による免疫・栄養学的検討．慈恵医大誌 2012；127(3)：105-12.

Ⅱ．総　　説

1）茅島江子．第31回日本性科学学会会長講演：性の健康と看護．日性科会誌 2012；30(1-2)：3-10.

Ⅲ．学会発表

1）西　佳子，茅島江子．初妊婦の健康行動・知識と医療者による保健指導状況との関連－妊娠前半期を中心として－．第26回日本助産学会学術集会．札幌，5月．［日助産会誌 2012；25(3)：61］

2）Imamura K, Kayashima K. Factors relating to sexual function in women 4 to 5 months postpartum. 12th Asia-Oseania Congress of Sexology. Matsue, Aug. [The 12th Asia-Oceania Congress of Sexology Program/Abstract 2012; 142]

3）石井裕子，渡邊優子，軽部紀代美，石井健二，池田勇一，大西明弘，細坂泰子，抜田博子．搾母乳の各保存方法による細菌の動向について．第23回日本臨床微生物学会総会．横浜，1月．

4）細坂泰子．妊婦・やせ妊婦の低出生体重児出産予防に向けた母体体重管理モデルの構築．第53回日本母性衛生学会総会・学術集会．福岡，11月．

Ⅳ．著　　書

1）茅島江子．第5章：女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する健康問題と援助　B.成熟期女性への援助．堀内成子（聖路加看護大学）編．助産学講座5：助産診断・技術学Ⅰ．第5版．東京：医学書院，2013．p.217-44.

地域看護学

准教授：嶋澤　順子　　地域看護学
講　師：高橋　郁子　　地域看護学
講　師：久保　善子　　地域看護学

教育・研究概要

地域看護学では，教員が各々に3つの研究テーマについて取り組んでいる。1つ目は，在宅精神障害者に対する行政保健師の援助方法に関する研究である。大学周辺地域の自治体の保健師の活動を中心に調査を進めており，大学と地域自治体との連携強化及び実践活動の質の向上を目指している。2つ目は，地域における感染予防を研究テーマとし，現在は高齢者施設で働く介護職員の手指衛生に関する研究を主にしている。3つ目は，産業看護職の活動を評価するためのツールの開発を行っている。特に，本年度はメンタルヘルス対策に関して研究を行っている。

また，地域看護学として教育内容の評価改善を目的とした2つの研究テーマに取り組んだ。1つは，地域看護学実習の評価である。看護系大学は，昨今の保健師助産師看護師学校養成所指定規則等の改正を受けて，平成20年および平成23年より施行の省令を基に，カリキュラム編成が行われ，看護教育が行われている。本学においても，カリキュラムが改正され，地域看護学関連の教育は，6科目・10単位・180時間となり，実習は従来の3単位より，「地域看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の4単位となった。特に，「地域看護学実習Ⅱ」においては，平成23年度に初めて3年次の全学生が「行政・学校・事業所での実習」を行った。そのため，「地域看護学実習Ⅱ」における学習効果を検証すると共に実習内容の改善を図ることを目的して，本学看護学生の「地域看護学実習Ⅱ」における実習の学びを分析した。もう一方は，保健師教育課程選択制に関わる現状と課題を明らかにすることを目的とした研究である。

「点検・評価」

各研究については，整理した調査データを調査対象者にフィードバックし，さらに各学会でその成果を発表した。

新カリキュラムの進行に即して，講義内容を新しく設定し，開講している。平成23年度から3年次に新たに開講した実習と4年次に開講している総合実習では，その内容の充実に向けて，実習場所の開

拓を進めている。各々の実習終了後には，学生の習得状況を分析し，実習内容の充実に反映できるように取り組んでいる。さらに，平成 27 年度から開始となる保健師の教育課程選択学生が受講する公衆衛生看護学関連の科目・実習内容の検討を鋭意進めている。

研 究 業 績

Ⅱ．総　説

1）久保善子．生き生き活動が実現！もう一度学ぼう看護理論（第 4 回）　産業看護を支える基礎概念　ベナー看護理論　臨床技能習得の段階に関する理論．産業看護 2012；4(4)：399-404.

Ⅲ．学会発表

1）嶋澤順子．個人・地域の文化的側面を尊重した在宅精神障害者への援助方法．第 38 回日本看護研究学会学術集会．宜野湾，7 月．
2）高橋郁子，嶋澤順子，久保善子，笹井靖子．（第 16 分科会：保健所・衛生行政・地域保健）高齢者施設の手洗い環境に関する研究．第 71 回日本公衆衛生学会総会．山口，10 月．［日公衛会抄集 2012；71 回：531］
3）丸谷美紀，嶋澤順子，椿本香理，佐藤紀子．自殺対策における保健師の基盤となる考え－看護研究の動向及び保健師の実践報告より－．日本地域看護学会第 15 回学術集会．東京，6 月．
4）久保善子，鳩野洋子（九州大学）．（第 20 分科会：産業保健）心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援に関する産業保健師の役割．第 71 回日本公衆衛生学会総会．山口，10 月．［日公衛会抄集 2012；71 回：573］
5）久保善子，嶋澤順子，高橋郁子，笹井靖子．東京慈恵会医科大学における産業看護学実習での学生の学び．第 30 回産業医科大学学会．北九州，10 月．［産業医大誌 2013；35(1)：108］
6）久保善子，嶋澤順子，高橋郁子，笹井靖子．産業看護実習における学生の学びの分析．日本産業看護学会学会設立総会・第 1 回学術集会．東京，12 月．［日本産業看護学会誌 2012；1：51-2］
7）久保智英[1)]，高橋正也[1)]（[1)]労働安全衛生総合研究所），久保善子，鈴村初子（愛知医科大学）．交代勤務看護師の生活活動タイプと疲労回復．第 85 回日本産業衛生学会．名古屋，5 月．［産業衛誌 2012；54(臨増)］
8）Kubo T, Takahashi M, Kubo Y, Suzumura H. The length of time that shift-working nurses have for themselves on days off is associated with recovery from work. 21st Congress of the European Sleep Research Society. Paris, Sept. [J Sleep Res 2012；21（Suppl.1）：268]

在宅看護学

教　授：北　　素子　　在宅看護学
講　師：吉田　令子　　在宅看護学
講　師：遠山　寛子　　在宅看護学

教育・研究概要

在宅看護学では学部教育として，平成23年度より，在宅看護学概論，在宅看護援助論，在宅看護学実習という一連の学習過程において，在宅看護の特徴を踏まえた看護過程の展開能力修得に重点をおいている。本年度は，その教育評価研究を行った。また，各教員の関心テーマに沿った研究を進めた。

Ⅰ．在宅における看護過程に重点をおいた演習型授業評価－学生の授業評価からの検討

従来，在宅看護学の演習では，事例を用いたロールプレイングを実施し，学生の実践力強化を目指した授業展開を行ってきた。カリキュラム改正後の在宅看護学におけるより効果的な在宅看護学演習授業のあり方を検討するため，授業評価を継続的に実施している。在宅看護学演習の授業構成と教材の妥当性，学生の学習への取り組み，理解度，教員の関わりに関して学生から概ね肯定的な評価が得られた。今後の課題として，①グループワークへの支援，②ロールプレイングにおける授業構成，指導体制の工夫，③計画立案に際してのグループ特性を踏まえた支援の強化が挙げられた。

Ⅱ．在宅における看護過程に重点をおいた演習型授業評価―在宅看護学実習における学生の目標到達度への影響

在宅における看護過程に重点をおいた演習型授業に対する学生の自己評価がその後の在宅看護学実習終了時の目標達成度にどのような影響があったのかを明確にすることを目的とし，学生の演習型授業終了時の自己評価とその後に実施された臨地実習終了後の自己評価の結果を比較検討した。演習型授業における看護過程の理解の深まるほど在宅看護学実習の目標到達度が高くなるという相関があり，在宅看護学の一連の学習プロセスが効果的であることが示唆された。

Ⅲ．急性期病院における認知症高齢者ケースの退院支援プロセス構築の研究

近年，認知症を有する高齢者が他の疾患の治療を目的として急性期病院に入院する機会が増えているが，その退院支援は困難ケースに挙げられる。認知症特有の困難性に対応した退院支援モデルを開発するための第１段階として，急性期病院の退院支援部門の看護師が関わる認知症高齢者の退院支援プロセスを明らかにする研究に取り組んでいる。本年度は，その準備段階として研究の枠組みとなる文献の検討を行うとともに，関連理論（relationship centered approach）に関わる書籍の翻訳を行った。

Ⅳ．在宅療養におけるチームケア間の情報共有システム構築のための基礎研究 I

在宅療養において家族を含めたケアチーム内で効果的な相互連携をとるために必要な情報を具体的に抽出し，遠隔地にいるチームメンバー間での情報共有を目指すための基礎研究をおこなった。まずは，訪問看護師が各メンバーとの間に必要とされる情報が具体化されたとともに，家族や医師以外にも情報共有が必要な関係職種があることが明確となった。

Ⅴ．在宅で最期を看取る家族の予期悲嘆へのナラティブアプローチによる介入効果

在宅で最期を看取る家族の予期悲嘆に対してナラティブアプローチにより予期悲嘆がどのように変化をしていくのか介入効果を検討するために，余命６カ月以内と診断された療養者の家族へナラティブアプローチを実施し研究を継続し進めた。

Ⅵ．在宅高齢者の介護予防支援ネットワークの環境整備の基礎研究

地域団体や地域ボランティアおよび他職種との連携のもと，地域の資源を活用し，介護予防の必要な対象者を発見するネットワークを整備することが介護予防の新たな課題解決の鍵となると考える。その為の基盤研究として，A 地域の介護予防に関する地域組織のもつ情報やニーズ及び資源を把握することを目的に，各団体に所属する対象者（自治会役員，電話訪問ボランティア，民生委員，地域包括支援センター職員）に対する個別インタビューを実施し，地域の特性に応じた情報の整理と課題の検討を行っている。

「点検・評価」

本年度の教育評価からは，演習型授業における看護過程に重点をおいた在宅看護学の一連学習プロセスが学生にとって効果的であることが確認された。一方，演習型授業で扱う事例数や課外学習の量には検討の余地があること，講義形式で行っている科目における知識の定着率が低いことなどの課題がある。これらの課題を解決するために，さらなる授業改善を行っていくとともに，教育評価を継続してゆく必要がある。

各教員が取り組んでいる研究は，いずれも在宅看護学領域では重要なテーマであり，領域内でサポートしあい，さらに発展的に取り組んでゆきたいと考える。

研　究　業　績

Ⅰ．原著論文

1）谷津裕子（日本赤十字看護大学），北　素子．質的研究をめぐる諸問題　質的研究の結果は一般化できない？　日看研会誌 2012；35(1)：53-4.
2）北　素子.【質的研究を学び合う　JRC-NQR の実践】システマティックレビューにおけるエビデンス統合とその解釈的アプローチ．看研 2012；45(3)：253-9.
3）谷津裕子（日本赤十字看護大学），北　素子．質的研究の結果は一般化できないのか？　質的研究における一般化可能性．看研 2012；45(4)：414-20.

Ⅲ．学会発表

1）北　素子．要介護高齢者家族への支援における「家族生活安定度尺度」適用可能性の検証．日本看護研究学会第 38 回学術集会．宜野湾，７月．［日看研会誌 2012；35(3)；178］
2）遠山寛子，北　素子，吉田令子．臨地実習におけるモバイルラーニング活用プログラム開発の基礎研究．日本看護研究学会第 38 回学術集会．宜野湾，７月．［日看研会誌 2012；35(3)；254］